



住宅設計のプロがおすすめする

家の照明 7選

2026年版

クオホーム 本田準一

はじめに

こんにちは。クオホームの本田です。

この資料を請求いただき、ありがとうございます。

家づくり百貨の取材で全国を飛び回っていると、いろいろな家を見ます。最近とくに多いのが、照明についての相談です。

そして、家に合っていない照明を選んでいる方が、思っている以上に多い。もったいないな、といつも感じています。

実は、高価なデザイナーズ照明を入れたからといって、必ずしもオシャレになるわけではありません。

照明器具は、高級時計と少し似ています。

分かる人が見ると「いい時計してますね」と言われて、なんだか嬉しくなる。

照明も同じで、「この照明、いいやつですよ」と言われる嬉しさがあります。

つまり、照明やインテリアは自己満足の世界です。

まずは自分が気に入った照明をつけること。

それが、日々の暮らしを愉しくするコツだと思っています。

ただ、「良い照明がよく分からない」「デザインには自信がない」という方も多い。

そういう方のために、この資料をまとめました。

ここ数年、誰よりも多くのセンスのいい住宅を見てきたおかげで、

照明と住宅の相性は、すぐに分かるようになりました。

とくに私の好きな木の家にじっくりくる照明は、自信を持ってすすめられます。

なお、これは安い照明を探すための資料ではありません。

照明は、一度つけたらほとんど付けっぱなしになります。

だからこそ、長く好きでいられるものを選んでほしいと思っています。

子どもたちや、次の世代まで引き継げる照明。

そういう選び方があってもいいのではないのでしょうか。

1. ルイスポールセン | トルボー220

まっすぐで、端正なかたち。

上下に光が広がるので、真下だけが明るくなりすぎません。

一列に並べても、数個まとめて吊っても、色を変えて組み合わせても、空間にきれいに収まります。どんなインテリアにも寄り添う懐の深さがあります。

シェードのかたちは、ポール・ヘニングセンが設計した楕円形リフレクターがもと。

三層吹きガラスを通った光が、やわらかく上へも回ります。

ガラスには気泡やしわ、黒点が混ざっていたり、

かたちや重さに個体差が出る場合があります。

すべて手作業によるもので、一つひとつが違う表情を持っています。

付属のコードハンガーで吊り下げ位置を調整でき、

45度までの傾斜天井にも取り付けられます。



ダイニングに1灯。上下に光が回るので、天井まで
明るい。

手元にはしっかり、まわりにはやわらかく。

本田の一言

北欧の照明の定番で、何も邪魔しない、とても使いやすいシンプルな照明です。

よく似た照明に、建築家・中村好文さんの「PERA」があります。
ただ雰囲気は微妙に違うので、上手に選定するとよいと思います。

2. ルイスポールセン | PH5

1958年、ポール・ヘニングセンの設計。

名前は本人の頭文字と、メインシェードの直径500mmから来ています。

この照明のすごいところは、光源が直接見えないことです。

どの角度から見ても、まぶしさがありません。

ヘニングセンは、デザインより先に「光の在り方」を考え抜いた人でした。

内側にはミニリフレクターが仕込まれていて、

シェードの色に合わせた反射色が決められています。

器具の内側から湧き上がる間接光と、シェードの色が重なって、

いつまでも眺めていたくなる灯り方をします。

ダイニングテーブルの上に吊ると、空間が一段変わります。

カトラリーが光を受けてきらめき、食事がおいしそうに見える。

直径500mmのPH5は、4〜6人がけ(テーブル幅1800mmくらい)にちょうどいいサイズです。



塗り壁を背に。シェードの層が、光源を隠している。



見上げると、内側の赤いリフレクターが見える。



木の家にも、意外なほど馴染む。

本田の一言

ルイスポールセンの定番照明。

夜、光源の当たり方を見ると惚れます。

3. ヴィルヘルム・ラウリッツェン | VL45 ラジオハウス ペンダント

1940年代、デンマーク国営放送局(ラジオハウス)のために作られた照明です。

設計は建築家ヴィルヘルム・ラウリッツェンとルイスポールセンの共同。

2016年に「VL45 ラジオハウスペンダント」として復刻しました。

真鍮のサスペンションと、乳白色の三層吹きガラス。

外側と内側に透明ガラス、真ん中に乳白ガラスを挟んだ構造です。

この構造のおかげで、全方向にやわらかく広がる光と、

ガラスの開口部から落ちる下向きの光を、同時に持っています。

部屋全体を均一に照らしながら、手元にはしっかり光が届きます。

真鍮部分には表面処理がされていません。

素手で触ると指紋が残りやすく、磨いても落ちにくい。

けれどその性質のおかげで、時間とともに表面が変わり、独特の風合いが出ます。



出典: connect-d.com

本田の一言

この丸みが、空間を柔らかくします。

全体がガラスなので、空間全体に優しい光が当たります。

4. レ・クリント | LAMELLA ペンダント KP132

きのこの裏側にあるひだから発想された照明です。

デザイナーのタカギ&ホームスベットが、

きのこの傘の裏に広がるプリーツの繊細さに惹かれて生まれました。

1枚の樹脂製シートから無数のプリーツを折り上げ、

頂点を作らずに熱で湾曲させる。この技術は習得が非常に難しいそうです。

角のない、流れるような有機的なかたちになりました。

レ・クリントの始まりは1901年。

デンマークの建築家P.V.イェンセン・クリントが、

日本の折り紙に影響を受けて、一枚のシートからオイルランプのシェードを折り上げました。

2003年にはデンマーク王室御用達に選ばれています。

サイズはΦ46 × H33cm、コード長150cm。



出典: market.jp

本田の一言

洋風のイメージがありますが、どんな家にも似合う一品でおすすめです。

5. flame | kuchen(クーヘン)

布シェードの重なりが、美しく浮かび上がります。

落ち着いた、やわらかい光。

天井にも光が広がるので、空間全体がやさしく照らされます。

直径400mm、高さ300mm、重さ1.3kg。素材は布です。

最大100Wまでの電球が使える、LED電球にも対応しています。

配線ダクトレール用プラグを使えば、ダクトレールにも取り付けられます。

調光・調色の機能は器具側にはありませんが、

調光器と対応電球を使えば可能です。

flameは、北欧を旅したときに見た風景から生まれたブランドです。

ペンダントライトが目線ほどの高さに吊るされ、

ほのかにテーブルを照らしている。その光景がもとになっています。



木の天井の下で。布のシェードが空間をやわらげる。



灯すと、布の重なりが浮かび上がる。

本田の一言

照明メーカーの定番品です。

布シェードが優しい感じになるので、好きな方は惚れ込む照明です。

6. FLOS | GLO-BALL(グローボール)

イギリスのデザイナー、ジャスパー・モリソンの設計。

球体を少しだけ変形させたようなかたちで、その親しみやすさが人気です。

ガラスグローブの表面には、キメの細かい酸化処理。

吹きガラスの技法で、薄く均一な厚みに仕上げられています。

ランプを入れる開口部を極限まで小さくすることで、

グローブ全体が余すところなく発光します。

だからシェードに影が一切映らず、どこから見ても隙がありません。

余計なものが削ぎ取られたデザインと実用性、そして誠実さ。

建築家の横内敏人先生をはじめ、有名な建築家が愛用することの多い照明です。

グローボールSはS1とS2の2サイズ。

手のひらサイズのMINI GLO-BALL Sもあります。

単体でも、サイズ違いで多灯吊りにしても合います。



吹き抜けに1灯。この使い方がいちばん映える。



ダイニングに。球体は、どこから見ても表情が変わらない。



テーブルの上。開口部が小さいので、影が出ない。

本田の一言

サイズ感を知っておかないと、大きさに失敗することがあるので要注意。

吹き抜けの天井から吊るす使い方が、ベストだと思います。

7. コイズミ照明 | AB42597(通称・ぷにぷに照明)

クオホーム定番のブラケット照明です。

素材がシリコンなので、光をやわらかく通します。

とてもやさしい灯りになる。

そしてシリコンなので、低い位置に付けていても、
お子さんが割ったり壊したりする心配がありません。

同じシリーズで、四角いかたちのAB42598もあります。
こちらもいい感じなのでおすすめです。

コイズミ照明の製品なので手に入れやすく、
メインのブラケット照明としてとても使いやすい器具です。



塗り壁に埋まるように光る。シリコンならではの、やわらかさ。

本田の一言

弊社の定番で、コストも抑えられて、かつ変に邪魔しない照明です。

番外編 — 灯りは、電球で決まる

こちらもクオホームの定番です。

碍子(がいし)に、丸い電球を1つ。

値段がとても安く、かつシンプルなので、故障がしにくい。

仮に故障しても簡単に取り換えられます。

(取り換えには電気工事士の資格が必要です)

青山電陶 E26小モーガルソケット

<https://www.amazon.co.jp/dp/B00DVDCWHC>

電球は「根元」で選ぶ

電球は「東京メタル ボール形LED電球 フロスト 電球色」を使っています。

丸電球はたくさんありますが、東京メタルの良さは、

根元のところまでデザインされていることです。

一般的なLED電球は、根元のプラスチック感がむき出しのことが多い。

碍子のように電球がそのまま見える付け方をするなら、ここが効きます。

根元まですっきりした電球を選んでおきましょう。

東京メタル ボール形LED電球 フロスト

<https://www.amazon.co.jp/dp/B071KK1C58>



廊下に2灯。碍子と丸電球だけの、いちばん簡単な灯り。

本田の一言

和の雰囲気にも合う、ブラケット照明です。

碍子のソケットと、合わせるボール形の電球選びは要注意。

この東京メタルの電球がおすすめです。LEDでも根元までガラスなので、全体が綺麗に見えます。

照明を探せる、おすすめのショップ

上記以外にも、ネットで買えるお店をいくつか紹介します。

お気に入りの照明をぜひ探してみてください。

flame照明 <https://www.flame-product.com/>

ニューライトポタリー <https://newlightpottery.com/>

アトリエキーメン <https://key-men.shop-pro.jp/>

ランプスタジオアンバイ <https://www.lampstudio-anbay.com/>

最後に

照明器具は値段がピンキリです。

でも、一度設置したらほとんど付けっぱなしになります。

安い照明を適当に付けるのではなく、
せっかくなら最初からこだわって、
お気に入りの照明を眺めながら生活したい。

インテリアでは、それくらい重要なアイテムだと思っています。

そして照明は、後から足すものではなく、
最初から予算に入れておくものです。

図面ができてから「照明はどうしましょう」となると、
だいたい予算が残っていません。

家づくりのお金の話は、別の小冊子にまとめています。
よろしければこちらもどうぞ。

『誰も教えてくれない 家を建てた後にかかるお金の話』(無料)

<https://quohome.com/guidebook2026/>

少しでも家づくりの参考にさせていただけたらうれしいです。

クオホーム 本田

※本資料で紹介している照明は、タイアップではありません。購入はご自身の判断をお願いします。

※製品画像のうち、3番・4番は各販売店サイトより引用しました(出典は各ページに記載)。

※本資料に掲載の文章およびクオホーム撮影の写真について、無断転載・複製・改変を禁じます。